

北海道畜産学会・北海道草地研究会・北海道家畜管理研究会

2006年度合同シンポジウム

北海道畜産の将来を考える

本年度は標記の学会・研究会の合同により、「北海道畜産の将来を考える」と題して下記のとおりシンポジウムを開催した。行政および研究の立場から三名の演者を迎え、北海道の酪農を取り巻く状況の展望についての講演の後、それに基づく総合討論を行った。ここでは、当日配布された講演要旨および総合討論の様様をお伝えする。

日 時：

2006年12月12日（火）13：30～17：30

場 所：

北海道大学学術交流会館 講堂

実行委員長：

岡本 全弘（北海道畜産の将来を考える会 会長：酪農学園大学）

座 長：

干場 信司（北海道家畜管理研究会 会長：酪農学園大学）

前田 善夫（北海道草地研究会 会長：北海道立根釧農業試験場）

話題および話題提供者

1. 北海道を支える飼料資源 飼料自給率の向上に向けた今後の対応方向
農林水産省生産局畜産部畜産振興課草地整備推進室長 大橋 史郎氏
2. 「北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」策定の背景と目指す方向
北海道農政部食の安全推進局畜産振興課主幹 上田 泰史氏
3. 家畜管理に求められる新しい流れ —EUの動向とOIE基準等—
北海道大学大学院農学研究院教授 近藤 誠司氏